雨

晴れた青空の数ほど
きみを愛した

傘に落ちる雨音の数ほど
きみを疑った

風にそよぐにせアカシアの葉の数ほど
きみの傍の
見えない誰かに心を焼いた

強い八月の日光の数ほど
きみの心にぼくがいないことを知った

愛することは
四月の陽を浴びて立つほど簡単で

きみの冷たい声に打ちひしがれるのは
十一月の雨に叩かれるより易しい

もう
きみが見えない